

■鶴屋南北(4世) 歌舞伎狂言作者。江戸写実劇完成して劇壇重鎮となり、最晩年に最高傑作「東海道四谷怪談」。

つるやなんぼく

自然真菅道・1755＝ 海老屋伊三郎という紺屋の型付職人の子として、日本橋新乗物町に生まれる。

大岡忠光没・1760＝ 5歳：

加賀千代句集1764＝ 9歳：

田沼意次老中1772＝17歳：

大原騒動・・・1773＝18歳：

雨月物語刊・1776＝21歳： 見習作者として芝居の世界に入る。

・・・・・・1777＝22歳： 初世桜田治助を立作者とする中村座に、桜田兵蔵の名で出勤するが、

源内獄中死・1779＝24歳： 名前が消える。

・・・・・・1780＝25歳： 市村座に沢兵蔵と改名し、

・・・・・・1781＝26歳： 約半年消息をたったが、

天明大飢饉始1782＝27歳： 森田座へ勝依蔵の名で再勤する。

以来、長い下積みの習作生活をかさね、先輩作者の助筆、補綴、“小幕”とよばれるコミカルな短い幕の執筆などを続けた。

田沼意次失脚1786＝31歳：

混浴禁止・・・1791＝36歳：

松平定信引退1793＝38歳：

伊能測量始・1800＝45歳：

宣長没・・・1801＝46歳： 河原崎座の「世響音羽桜」で、はじめて立作者の地位にすわる。

いざノ来航・1804＝49歳： *河原崎座で初世尾上松助にあてて書いた「天竺徳兵衛韓嘶」が、水中早替りなどのケレンで観客を瞠目させ、約2ヵ月半のロングランとなって大成功となる。「四天王楓江戸粧」。これ以降25年間の作者生活を通じて、尾上松助のほか当時劇界3頭目としての地歩を占めつつあった5世松本幸四郎、3世坂東三津五郎、5世岩井半四郎、また新進の3世尾上菊五郎、7世市川団十郎らにはめて合計120編余の作品を書く。

フェトン号事件 1808＝53歳： 「彩入御伽艸」「時桔梗出世請状」、

浮世風呂・・・1809＝54歳： 「阿国御前化粧鏡」、

・・・・・・1810＝55歳： 「心謎解色糸」「勝相撲浮名花舳」「絵本合法衢」「当種八幡祭」、

ゴロツキ拿捕 1811＝56歳： 義父の名跡、南北を襲名。この年に出された法令(狂言中府内地名の使用禁止、衣裳小道具法度、糊紅の使用禁止など)に抵触するところあってか、「謎帯一寸徳兵衛」は興行を中絶。

高田屋拿捕・1812＝57歳： 幕府当局からの狂言差止めは「色一座梅椿」でも惹起し、その年中不当りが続いたが、

浮世床・・・1813＝58歳： *「お染久松色説販」は大当たりとなる。

黒住教・・・1814＝59歳： 「隅田川花御所染」、

・・・・・・1815＝60歳： 「杜若艶色紫」、

杉田玄白没・1817＝62歳： 「桜姫東文章」、

水野忠成老中1818＝63歳： 「四天王産湯玉川」、

英船浦賀来航1822＝67歳： 「靈験亀山鉾」、

シボク来日・1823＝68歳： 「浮世柄比翼稲妻」「法懸松成田利剣」、

異国船打払令1825＝70歳： 「盟三五大切」、*最高傑作「東海道四谷怪談」、

日本外史・・・1827＝72歳：

シボク事件・1828＝73歳：

シボク追放・1829＝74歳： 「金幣猿嶋郡」を最後に、没した。

「この人どんな人」、「没年日本史人物事典」、平凡社百科事典、山田風太郎「人間臨終図巻」、「江戸・東京を造った人々」、日本の古典名著、